

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書、ユーザー登録カード、浄水カートリッジはつり下げ袋に入れ水栓につるして、必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告

湯水を逆に配管しないでください。

水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

寒冷地仕様の場合
水抜きつまみは水抜き以外の目的で開けないでください。

水抜きつまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

加工および接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

給湯に蒸気を使用しないでください。

器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

注意

器具に強い力や衝撃を与えないでください。

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

カートリッジを落としたり、強い力や衝撃を与えないでください。

カートリッジが破損・変形し、浄水効果が発揮されないおそれがあります。

めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

めっきの表面が割れて、けがをすることがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

シャワーヘッドの浄水出口は清潔を保つため、汚れた手で触ったり、シャワーヘッドを水中に没するような使い方はしないでください。

禁止

飲料水に適さない水が流出し、体調を損なうおそれがあります。

配管接続部をテーパねじに接続しないでください。

禁止

テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

給湯温度は60℃以下で使用してください。

60℃以下

60℃を越える高温でご使用になると、カートリッジが破損する場合があります。

注意

浄水は湯を流さず、水のみを流してお使いください。

浄水で湯を流すと、活性炭に吸着された水道水中に含まれる物質が流れ出る可能性があります。

浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につるし、お客様にお渡しください。お客様が使用開始する時点での取り付けになります。

水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。

水道水および飲用可能な井戸水以外の水を使用すると、故障や水漏れの原因になったり、体調を損なうおそれがあります。

小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。

高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A= (給湯器の最低作動水圧) + (配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温: 25℃ 給湯器温度調節: 高温 吐水温度: 42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+70.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃以下に設定してください。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

取り付け完成図と各部の名称

寸法図

シャワーホース長さ L=1000

A	逆止弁付仕様	逆止弁無仕様
	411	399

分解図

1 レバーハンドル	21 カブラー
2 固定ナット	22 シャワーホース
3 カートリッジ	23 タッピンねじ
4 吐水口	24 ストレーナ
5 回転規制ストッパー	25 シャワー握り
6 本体	26 クリップ
7 ねじ	27 浄水カートリッジ
8 キャップ	28 シャワーヘッド
9 プラグ	29 パッキン
10 上面アダプター	30 ストレーナ
11 固定ねじ	31 シャワーフェイス
12 ホースガイドA	32 水抜き付きカブラー
13 ホースガイドB	33 ジョイント
14 ブレードホース	
15 保護キャップ	
16 クイックファスナー	
17 ジョイント	
18 逆止弁	
19 パッキン	
20 キャップ	

部品の形状は仕様によって異なる場合があります。

寒冷地仕様

逆止弁無仕様

取り付け手順 3

6-2

③ カプラー(または水抜き付きカプラー)とシャワーホースを接続します。カプラー(または水抜き付きカプラー)手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は100N・cm)

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
 漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
 ※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
 ※シャワーホースはねじらない

④ カプラーのキャップをはずし、スライダーを下におろしてから、本体のプラグへカチッと音が出るまで押し込みます。(スライダーがすでにおろしている場合もあります。寒冷地仕様の場合は、エルボが下向きになっていることを確認します。) 取り付け後、カプラーを引っぱってはずれないことを確認します。

【△注意】シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

【△注意】カプラー取り付け後、確実に接続されているか、下記の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・スライダーが上がっていること
 ・カプラーを真下に引っぱってはずれないこと
 ・カプラーを真下に引っぱってはずれないこと

シャワーヘッドを引き出し、シャワーホースがスムーズに動くことを確認してください。
 流し台に水受け用タンクがある場合 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。(ホースとの接続の銅管部を少し曲げるにより調節できます。)

浄水カートリッジについて

施工の時点では、シャワーヘッド(握り)に貼っている【ご使用前にカートリッジを取り付けてください】シールは、はがさないでください。お客様が使用開始する時点ではがします。

【△注意】施工が完了しても、浄水カートリッジは取り付けず、つり下げ袋に入れたまま、水栓につるし、お客様にお渡しください。お客様が使用開始する時点での取り付けになります。施工の時点で取り付けて放置すると、浄水カートリッジが破損し、飲用に適さない水が流出して体調を損なうおそれがあります。

つり下げ袋の中に下記の物が同梱されているか確認してください。

取り付け後の点検と清掃 1

通水確認・ゴミ等の流し出し

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。通水確認は、浄水カートリッジを取り付けない状態で行ってください。浄水カートリッジを取り付けた状態で通水確認をして、使用しないまま放置した場合、浄水カートリッジの性能が落ち、使用できなくなることがあります。

- ① ドライバー等でクリップをはずしてから、シャワーヘッド(握り)をはずします。
- ② シャワーホースを引き出し、シンクに置きます。
- ③ 湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。
- ④ シャワーホースを持ち、下に向けた状態にして、湯水全開で数分間吐水させ、配管・水栓内のゴミ等を流し出します。

清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

取り付け後の点検と清掃 2

シャワーフェイス・ストレーナの清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がたまりまると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

- ① 湯水全開で20~30秒吐水させます。
- ② ドライバー等でクリップをはずします。
- ③ シャワーヘッドをはずし、ストレーナ(1個)を取りはずします。
- ④ シャワーフェイスをはずして、ストレーナ(6個)を取りはずします。
- ⑤ シャワーフェイス、ストレーナをブラシで水洗いします。

【清掃後の組み立て】
 はずした逆の手順で組み立ててください。その際、シャワーフェイスを締め込む時、約2回転程締め込んで、シャワーフェイスつまみ部が後ろで止まるまで締め込んでください。
 【お願い】止まるまで締め込んだら、それ以上締め込まないでください。破損するおそれがあります。

止水栓による流量の調整方法

止水栓による流量の調整方法は下記の方法で行ってください。レバーハンドルのクリック手前で適量(湯側・水側それぞれが5L/min程度)になるように止水弁で調節します。水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を全開にしてください。

図は一般地仕様

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページおよび項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	11ページ 「止水栓による流量の調節方法」
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がたまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	11ページ 「シャワーフェイス・ストレーナの清掃のお願い」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
高温しか出ない	シャワーフェイス・ストレーナは凍っていませんか	シャワーフェイス・ストレーナにぬるま湯をかける	—
	浄水カートリッジの寿命はきていませんか	浄水カートリッジを交換する	取扱説明書12~14ページ 「浄水カートリッジの交換/取り付け・取りはずし」
低温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	11ページ 「止水栓による流量の調節方法」
	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	11ページ 「止水栓による流量の調節方法」
温度調節がうまくできない	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
吐水が飛び散る	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で湯と水の量が同じになるように調節する	11ページ 「止水栓による流量の調節方法」
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がたまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	11ページ 「シャワーフェイス・ストレーナの清掃のお願い」
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がたまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	11ページ 「シャワーフェイス・ストレーナの清掃のお願い」
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がたまっていませんか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	11ページ 「シャワーフェイス・ストレーナの清掃のお願い」

【水栓本体内部のメンテナンスをする場合】

【△注意】・修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
 ・メンテナンスは専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。
 吐水口やレバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。